

# 挑む!

## スペースエンジン社長

### 野口 寛士かんじさん(27)

## ネット通販商品 実店舗に橋渡し

今やネットを通じ、誰でもモノを売ることができる時代。ただ、客に商品を手にとってもらえないのがネット通販(EC)の弱みだ。一方、商品を置く空きスペースを持つ実際の店舗もある。

昨年5月、両者をつなぐ「店舗のシニアリングサービス」を手がける「スペースエンジン」(大阪市)を起業した。出品先を検索できるスマートフォン向けアプリも開発し、すでに2千件を超えるEC業者が登録している。産地にこだわったコーヒー豆など珍



大阪府出身。関西学院大に在学中の2013年、ツイッターで募った仲間と最初の起業。18年3月にその会社の役員を退任し、5月にスペースエンジン設立。

しいモノが店舗に並ぶようになることから、大手の商業施設も注目。東京・銀座の東急プラザや大阪の阪急三番街などの協業が進んでいる。

大学3年の時、大阪市主催の米シリコンバレーへの人材派遣プログラムに参加し、「起業家が主役の街」の空気に魅了された。在学中にデジタル名刺の交換アプリを開発する会社を立ち上げた。卒業後、シリコンバレーに戻り拠点を置いたが、事業譲渡を決めて帰国。「店舗のシェア」を思いついた。海外のテナントとの交渉も進む。提携先を増やし、日本の小さなネットショップでも、手軽に海外の店舗に出品できるようにしたい。「ウーバー(米配車大手)や、ウィーワーク(米シェアオフィス大手)のような企業を目指す。世界基準でアクセルを踏んでいきたい」

文・写真 中島嘉克

記者から

大阪の次は東京ではなく、海外。起業や事業展開のスピード感と目標の大きさに圧倒されます。